

あ、そうだ！ 休みだから、ちょっと飯塚・嘉麻・桂川行ってみよう！

67

THE VOICE

IIZUKA NEWS vol.67

2022 JANUARY

KYUSHU CONFERENCE

2021

Junior Chamber International IIZUKA

*Going To
Iizuka City*

人々と共に発展していく
そんな街にするために…

KYUSHU CONFERENCE 2021

Junior Chamber International Iizuka

九州コンファレンス特集! p01



Kyushu
Conference
in Iizuka

KYUSHU CONFERENCE 2021 Junior Chamber International IIZUKA

九州コンファレンスとは

年に一度、九州地区内内会会議所のJCメンバーが一堂に会して九州の発展への想いを共有にする場であるとともに、九州地区協議会が力強く発信したJC運動の成果を発信する場です。



九州地区大会特別室 室長
九州コンファレンス2021in飯塚 実行委員長

深田 良介

昨年は九州コンファレンス2021in飯塚愛・九州博～持続可能な地域の創造～にて行政や他団体の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

8月28日29日にて開催予定でした本大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令されWEB開催となりました。私たちは私たちの愛する飯塚市、嘉麻市、桂川町に九州全域の人々に足を運んで頂き、この地域の魅力を伝えたいという想い一心で一年半、大会の準備を進めていましたのでWEB開催となりとても悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、私たちが2021年度歩んできた過程は決して無駄ではなかったと自負しております。また、行政や他団体の皆様と関わらせて頂き構築した関係性、経験を最大限に活かし今後の青年会議所活動や稼業を通じて地域をさらに盛り上げてまいります。私たち市民の生活は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で大きく変化し、経済活動や価値観に大きな影響を与えました。今後の活動を通じてこの地域の経済発展、防災を含めたインフラ政策、地域に根差したSDGsの推進といった多くの課題に取り組みます。

稼業はもちろんですが私たちが愛するこの地域を守っていく地域のリーダーになる為に今後も熱い想いをもち率先して行動していくことを誓います。



東国原英夫氏

九州ばどげんかせんといかん！ 持続可能な社会に向けたインフラ

九州インフラ価値向上委員会のフォーラム事業として東国原英夫氏をお招きし「九州ばどげんかせんといかん！持続可能な社会に向けたインフラフォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、柴崎政俊九州地区協議会会長と中根竜大分ブロック協議会会長と東国原氏のパネルディスカッションとして開催し、東九州のインフラ整備に尽力された東国原英夫元宮崎県知事の目指した持続可能な地方の在り方について学ぶことで、九州として目指すべきインフラ網の形を考える機会とすることができました。その上で、九州における豊予海峡ルートの必要性や国土強靱化、防災面でのインフラ整備の重要性について発信することができました。

2021年度理事長総括



一般社団法人 飯塚青年会議所

第68代理事長 樺島玄陽

本年は、私たち一般社団法人 飯塚青年会議所にとって九州コンファレンス2021in飯塚を主管する記念すべき年となりました。九州コンファレンスに求められる、地域益、社会益、参加者益、主催者益、主管益の5益をより良いものにしていくために、本年は九州地区大会特別室を指揮者として、LOM全体で取り組んでまいりました。中でも、主催者益であります、九州地区協議会の発信の最大化、そして多くの九州中のJCメンバーにこの地域に来て頂く事により得られる地域益に注力して活動して参りました。

本年度は1室8委員会で九州コンファレンスを念頭に方針を含め、予定者段階から取り組んで参りました。また、それぞれの室、委員会のメンバーから九州地区協議会に出向して頂き、会議を重ねる事により、ロムを超えた九州の皆さんと繋る事ができました。地域を超えた活動も多々あり、苦労した面もあったかと思いますが、広域な連携により、新たなきづきを得ると共に、より多くの皆さんに、私達とこの地域を知って頂く事となりました。しかし、本年も新型コロナウイルスの蔓延拡大により、九州コンファレンスは直前で完全WEB開催へと切り替わる事となりました。それにより、私達の行う関連事業も大幅な変更を求められました。残念ながら中止となった事業もありますが、新しい様式を取り入れ、事業の開催、それからの地域への発信に努めて参りました。どんな時代や状況であっても、現状の把握、そしてどうすれば可能なのか、前向きに行動していく事で、本年掲げますスローガンの「成長」に繋がり、その成長の機会こそが私達の掲げる「明るい豊かな社会」の実現へと近づいていくと確信し一年間邁進してまいりました。

結びとなりますが、本年も様々な出来事がありましたが、その一つひとつをメンバーの皆さんの支えのもと乗り越えていく事ができました。この支えがあったからこそ、JCI飯塚の68年もの長い歴史を紡ぐ事が出来たのと共に、新型コロナウイルス蔓延の中であっても全力で活動する事ができました。来年は更なる飛躍のとなる事を御祈念いたしまして、私の総括とさせていただきます。

一年間、ありがとうございました。

一年間の出来事



ドライブイン灯明



「農業×福祉」連携事業



九州コンファレンス 2021



ワールド KAMA 包括連携協定調印式



ドライブイン灯明



「農業×福祉」連携事業



九州コンファレンス 2021



ワールド KAMA 包括連携協定調印式

2021年度飯塚青年会議所 新会員紹介



今里 啓二 (有)サンナイ調剤薬局

私は普段薬剤師として仕事をしておりますが、医療関係の方以外との関わりがなかなかできない状況が続いており、他業種の方と仲良くなり色々な思考を学びたく、飯塚青年会議所に入会させていただきました。ただ他業種の方と話して仲良くなるのではなく、同じ事業を共に達成する過程で絆ができ、本当の意味で信頼関係ができるのではないかと感じています。



大谷 翼 NPO法人 LIGアカデミー

NPO法人LIGアカデミー大谷翼です。飯塚市を中心にスポーツを通して子どもたちの教育に関わらせて貰っています。教育で魅力ある地域を目指して活動しています。宜しくお願い致します。



神崎 琢也 (株)麻生

世間では、未曾有の感染症が流行し、様々なイベントが中止になる中でも、飯塚青年会議所でその逆風を追い風に、諸先輩方と変えられるよう、尽力して参ります。



岸 和也 (株)岸クレーン工業

飯塚青年会議所に入会させて頂き、他業種の様々な方と出会うことができました。メンバーの人間力の高さにもいつも驚かされ、刺激を受けています。今後も飯塚青年会議所の活動を通して自己成長に繋げていきたいと思っております。



佐藤 涼介 (有)佐藤商店

「修練」「奉仕」「友情」を通して地域や社会に貢献し、地域を活性化出来るような活動をしていきたいと思っております。



鹿瀬 純一 (株)東海エース保険

JC活動を通じて、いろいろなことにチャレンジし、人との繋がりを大切にしながら、自分自身も成長していきたいと思っております。



鈴木 真悟 (株)鈴木建設

地元が飯塚でない旨で悩んでいたところ、周囲の方々の後押しもあり、飯塚青年会議所に入会させて頂きました。そこは不撓不屈の精神や、同じ目標に向かって軌を一にする姿があり、薫陶を受ける日々です。諸先輩方の背中を師とし、研鑽を積んでいきたい所存でございます。



曾根 諒太 江藤秀之事務所

飯塚青年会議所に入会致しました、福岡県議会議員江藤秀之事務所で秘書をしております曾根諒太です。生まれ育った飯塚の為、しっかりと頑張ります。よろしくご挨拶致します!!



田中 大輔 (株)BONDS

入会した当初はどんな団体なのだろうか。と大きな不安がありました。しかしメンバーは様々な職業、様々な考えを持った人の集まりであり、大変勉強になりました。成長できると分かったその不安は一瞬にして無くなりました。また、先輩方が真剣に議論を交わす姿には特に感化を受けました。これから青年会議所活動を通じて多くの経験を積み立派な経営者へと成長していきたいと考えております。



福丸 奈々美 なつきの司法書士・行政書士事務所

JC活動を通じ、自己啓発、豊かな人脈形成、地域貢献ができればと思い入会しました。よろしくご挨拶致します。



伏屋 和将 明治安田生命保険相互会社

伏屋と申します。まだまだ分からないことが多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。



前田 義之 (株)前田商事

活動を通して自己成長と地域貢献出来ればと考えております。一期一会を念頭に毎日を大切にしていきたいです。宜しくお願い致します。



本松 弘樹 (有)ワコー薬局

新型コロナウイルスの影響で事業がうまく行えない中、ニューノーマルな形で行った「ドライブin 灯明」。短期間の準備の中で紆余曲折ありましたが色々な方々の協力で大きな成果と成長を実感することができました。この経験を生かしてこれからのJC活動も頑張ります。



矢野 英介 中華そば麺すけ

JC活動を通じて、地域貢献 自己成長に繋がりたいと思っております。宜しくお願い致します。



山内 一也 (有)ネットワーク

JCの活動を通して自分の成長や地域貢献ができるよう頑張ります。よろしくお願い致します。



山上 諒 (株)アイックス福岡

飯塚青年会議所に入会后、初めての事業「ドライブin 灯明」を通じて沢山の方に協力やパワーを頂きました。今後も皆様と交流を深めながら、事業を楽しんでいきたいと考えています。

飯塚青年会議所って どんなところ？

青年会議所とは、修練・奉仕・友情という三信条のもと、ひとづくりやまちづくりをおこなう団体です。

といっても私は、入会する時点ではその意味も何となくでしか理解できませんでした。

しかし、活動や事業を通して感じたことがあります。それは、**人生においての選択肢が増える**ということです。

飯塚青年会議所には現在80名を超える地元で活躍するメンバーが在籍しています。

十人十色というようにそれぞれ違った考えをもっており、このメンバーと活動することで私も日々勉強をさせてもらっています。

堅苦しい書き方にはなりましたが、沢山の友人、さらには生涯の友もできるようなとても魅力ある団体です。

入会すると、楽しいこともあれば苦しいこともあります。しかし、得るものがとても多いと思います。

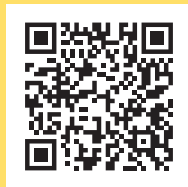
「ひとづくり・まちづくり」という目標に向かって一緒に楽しみながら頑張っていきましょう！

共に成長していきましょう!!

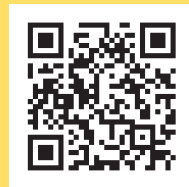
飯塚青年会議所
ホームページ



飯塚青年会議所
Facebook



飯塚青年会議所
Instagram





事業計画

- 地域の活性化を加速させるまちづくり事業
- 防災・減災への意識向上に向けた取り組みとまちづくり事業
- 進化した地域ブランドの創出事業
- 関りから学ぶひとづくり事業
- 会員の相互理解浸透と自己成長を促進させる例会運営
- JCI飯塚全体で取り組む未来へ繋げる会員拡大
- JCIの理想を理解し行動することのできるアカデミー育成
- JCI飯塚全体で取り組む山笠運営
- 台東国際青年商會との国際交流
- 新春祝賀会、創立記念、忘年会の運営

第69代理事長 外山 武志

はじめに

気がつけば、私が一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、JCI飯塚)に入会して14年の年月が経過しようとしています。その間、私の人生においてこのJCI飯塚は切っても切れない存在となりました。26歳のまだまだ青臭い青年が社会人として青年経済人として成長していくうえで様々な経験をさせていただきました。その経験全てが今の私を形成しているといっても過言ではありません。そしてこの長いJCI生活の中で多くの先輩に恵まれました。同時に多くのリーダーをみてきました。メンバーの先頭に立つて引っぱっていくやり方はそれぞれに違いがあったかと思いますが、先輩方に共通して感じていたのはリーダーとしての魅力があったことです。その魅力をおして様々なことを教えていただき、今の私があります。そしてその役割が現役最年長と私たちの世代に引き継がれてきています。多くの先輩方に恵まれたように多くの後輩にも恵まれました。後輩たちが未来にJCI飯塚をしっかりと背負っていくよう私が積んできた経験の全てを使い本年を突き進んでいきます。

「明るい豊かな社会」の実現という青年会議所の崇高な目的のため、JCI飯塚は様々な事業を展開して参りました。そのどれもが何をすべきかを自問自答し、どう行動に移すかを仲間と議論して創り上げてきたものです。どの事業にも伝えたいメッセージがあり、この地域の発展を想い行動してきました。その過程において人が大きく成長していくのを数多くみてきて、JCIにおいて事業が人を創るということを体感して参りました。結果も求めますが、まずは何よりも過程が大事だということを意識して誠心誠意、事業の構築に邁進してまいります。行動する時には確固たる信念を持ち、多くの方々に共感してもらえるように、そして私たちのメッセージがこの地域に届くように69年目の一歩を踏み出して参ります。

まちづくりを加速させる

2020年から続く新型コロナウイルスの影響で私たちの活動にも多大な影響を及ぼし、数多くの事業が行えなくなりました。この地域の方々にとっても閉塞感だたようこの期間で内面的になりどこか暗い気持ちで過ごしてきたのではないですか。だからこそ今地域の方々にも明るい気持ちになっていただけたらと思います。家族や友人と参加していただき、笑顔になって帰ってもらうことで、取戻に向かっていくことを実感することができるとも思います。またJCI飯塚にとっても、これからのこのまちの未来について思いを馳せることができるようになったことを感じてほしいと思います。

地域の魅力を発信していくイベントや季節の風物詩となっていた行事が行いつらい状況の中、開催したくとも二の足を踏んでいる主催者もあるかと考えます。そんな中、JCI飯塚が積極的に地域を元気にする事業の開催に向け、今の状況に適した様式を取り入れながら実行することで、他の事業を主催する団体の方々の背中を押すことができると確信致します。この地域に関わる各団体が積極的に動き出すことで私たちのまちの活性に繋がります。まちづくりが加速していきます。来場されるこの地域の方々にもまずは自分たちのまちで取戻を実感でき、地域色を盛り込んだイベントを楽しんでいただければ、今まで以上に自分たちのまちに目が向き、地域の活性に繋がると考えます。いち早くJCI飯塚が行うことで、まちづくりを加速させることができると確信し、地域の方々にもこのまちを誇りに思っていただけメッセージを発信していきます。今まで培ってきた私たちの経験と知識を用いて、最適な場所、最適な方法で皆様に最高の笑顔で帰っていただける事業を構築して参ります。

災害に強いまちづくり

近年、毎年日本のどこかで大規模な災害が発生するようになりました。「おきるかもしれない」ではなく「必ずおきる」という表現でも差支えなくなってきました。豪雨や台風、そして地震とありにも多くの災害がおこっています。もはやおきる前提で対策を講じなくてはならないと考えます。防災のためのインフラ整備も必須事項ですが、同時に意識の向上が今よりさらに必要だと感じます。何よりも自身が、もしくは離れた場所ですら家族や親族がいつ被災してもおかしくないということの意識を高めていただきたいと思います。

ハザードマップや避難場所の確認は当然のことですが、何が手元になればならないのか、また、避難所では何か不便になるのか等、考えて備えておく事項が数多くあります。行政やボランティアが手を差し伸べることでできるようになるには、災害後ある程度時間が必要になります。防災直後は被災者自身で生活をしたいかなければなりません。私たちに過去の教訓からえた情報が数多くあります。今こそその教訓を振り返りこれからの防災とは何なのかを一人ひとりが考えることのできる機会を創出し、災害に強いまちづくりを行います。災害に被災した時、今までの生活が一変します。必ず元どおりの暮らしに戻れる保証はありません。ですがたとえ被災したとしても、普段から備えておくことが出来ていれば、軽減できることがあるということを多くの地域の方々に伝えて参ります。

進化した地域ブランドへ向けて

2018年、JCI飯塚は創立65周年を迎えました。そこで今後5年間の取り組みテーマとして、新しい地域ブランドの創出が掲げられました。そして「スポーツのまち」を打ち出して様々な事業を展開して参りました。本年度はこの取り組みが始まってから5年目を向かえます。この一つの節目に当時を思い起こし、地域内外の人々から住みたい、行ってみたい、明るく楽しい地域づくりへ向けて取り組んでいきます。

「スポーツのまち」を浸透させるのに大会やイベントを開催し、参加者の方々がこの地域を訪れていただき、発信していく事業は過去にも行って参りました。今後この取り組みを地域で継続して行く上で今年度ブランディングしていく必要があります。そのためにブランドがどのように認識されたいのかをイメージし、そのイメージを視覚化することが必要だと考えます。その視覚化されたイメージを、関係する組織やイベントが、また新たに行う大会等幅広く共有出来れば、この地域は「スポーツのまち」だという認識を深めることができると確信致します。ハード面において充実した環境がこの地域には有り、スポーツの強豪校も台頭してきました。これらの資産ともいえる要素を取り入れ、地域内外の方々にも浸透させる設計を行えば、さらに発展していく可能性が広がります。私たちがスポーツを用いて、どのように地域が発展していくのかを明確にし、視覚からも伝わるように取り組み、地域内外の方々にも共感していただけるメッセージを発信していきます。過去4年で蓄積された経験を基に、今だからできる進化した地域ブランドの創出へ向けて事業を行って参ります。

関りから学ぶひとづくり

青年会議所の構成年代で多数を占めるのは、責任世代といわれる30代のメンバーです。その私たちが常に考えておく必要があるのは、次の時代を担う子どもたちの成長です。過去も現在も様々な課題を地域社会は抱えています。未来の日本の「明るい豊かな社会」の実現のために行動するのは今を生きる子どもたちです。この子どもたちが健やかに成長していくのは、一つ私たちの世代の責任です。

私の幼いころ、常に周りに自分以外の多くの人に囲まれて育って参りました。9歳から始めたスポーツでは様々な人と交流でき、多くの事を学んで参りました。今の子どもたちにも同じように同じことがいえるのではないかと考えます。様々な考えを持つ人と数多く交流でき、関わる事が出来れば、子どもたちの今後の成長に必ず寄与して参ります。そのような機会を継続して提供できる仕組みが必要だと考えます。

この地域にはスポーツの充実した環境があり、様々な大会にも対応できます。それにより多くの地域外の子どもたちを呼び込むことも可能です。しかし、ただ試合するのみに留まらずにこの地域を訪れるのではなく、子どもたち同士で今よりさらに交流できる仕組みを盛り込んだスポーツイベントを開催できれば、私たちの考える子どもたちの成長に繋がります。子どもたちの成長において様々な人と関わることで多種多様な考え方に触れ、それらを自分の中に落とし込むことで力強く成長できるのではないかと考えます。何よりも自分の考えをどうすれば相手に理解してもらえるようになるのかを子どもたち自身が意識できるように将来多くの仲間にも恵まれて、様々な困難もその仲間たちと乗り越えていくことができるかと確信します。他者と関わる、交流する、相手の考えを知る、自分の考えを伝える。このことが子どもたちの成長において何よりも重要なことだと考え伝えていきます。子どもたちがこの地域で健やかに成長していき、将来自らの足でしっかりと歩んでいくために、子どもたちの大きな可能性を信じて取り組んで参ります。

機会を活かし自己を成長する

青年会議所は同世代の青年経済人の集まる組織です。その同世代の青年経済人と関わる機会も多くあります。また自ら機会を創出し提供する仕組みもあります。この機会と仕組みを私たちは最大限活かしているでしょうか。この当たり前のように与えられている環境がいかに大切なことを意識し、活かすことで自己が成長し、地域社会へ伝わる大きな力となります。人は人によって磨かれます。しかしただ人の中にいるだけでは磨かれませんが、関わるということは相手の考えを知り、自分の考えを伝え、時には妥協せずに議論を重ねながらお互いに理解できる関係を築くことです。

JCI飯塚の財産はメンバーです。様々な考え方や価値観が存在する環境が他者との関りを持つ上で必要であり自身を成長させることができます。この魅力ある環境の中で、多くのメンバーの個性が一つの目的のために同じ方向を向いたとき大きな力を生み出します。生み出した力こそが確かなメッセージとして地域に波及し多くの方々に共感していただけると思います。大きな力を生み出すため、また何のために行うのか、結果どうなるのか、しゅかりとビジョンを示し理解をえることが大切です。そのためにも日ごろからメンバー間の関りを深くコミュニケーションが取れる環境が必要です。同じJCI飯塚に所属する仲間同士がお互いを理解できる関係を築いていくよう、またそれによって自己が成長できる機会を創出していきます。

未来へ繋ぐための会員拡大と育成

人の身体には新陳代謝が繰り返行われています。それは生命の維持のために不可欠なものです。組織にも同じことが当てはまると思います。私たちに代っての新陳代謝とは新たな会員を継続して獲得していくことです。40歳を以って卒業するJCIにとって次に未来を託すのは現役メンバーです。継続して会員を獲得していかなければ託す相手が必然となくなってしまう。「明るい豊かな社会」の実現に明確なゴールはなく、人や時代が変わり続ける限り常に常にその時代に生きる人々への大きなテーマとなります。だからこそ私たちは確実に次の世代へとバトンを繋げなくてはなりません。また獲得するだけではなく、しっかりとJCIの中で育成を行うことが必要です。様々な機会に触れていただき、JCIが掲げる理想と、理想の実現のため、どう行動していくのかを理解していただきます。また多くのリーダーを知ってもらい、近い将来、自身がこのJCI飯塚の役割の中で先頭に立つことのできる人材へと成長していき、先人たちの思いを知りしっかりと受け継ぎ「明るい豊かな社会」の実現に向けて邁進することのできる人材へと育成していきます。

終わりに

過去2年間、私たちは今まで経験したことのない状況下におかれました。福岡県にも度重なる緊急事態宣言が発令され、外出や行動を制限され、親しい友にも会えず、社会は混沌とした状況になりました。何よりも対面での価値を重要視してきた我々JCIにとっても計り知れないダメージを受けて参りました。今まで何も感じることもなく集い、様々なことを経験してきたことがいかに大切で決って当たり前のことではないということを感じて参りました。ですが、この困難な中でも何もできないのではなく、しっかりとJCIの中で育成を行うことができました。まさにそれがJCIだと思います。対面こそが正しく、非対面は正しくはない。

この考え方が違うということにも気づかされました。2022年の第一歩を踏み出すに当たり、この2年間で培ってきた様式を取り入れながら決って歩みを進めることのないよう進んで参ります。一人ひとりが与えられた役割を果たし、常に考えること、意識して、行動する時には確固たる信念を持ち、様々なことに青年らしくチャレンジしていきます。この地域に笑顔が溢れ、活気に満ちている光景をイメージして私たちのメッセージが確実にこの地域に届くように、素晴らしい仲間と共に、本年のJCI飯塚を大切に未来へと紡いでいきます。

 理事長 外山 武志 (株)KMG H21年4月	 直前理事長 榎島 玄陽 龍王ガス(株) H23年9月	 顧問 麻生 将豊 麻生商事(株) H23年9月	 副理事長 多賀谷 勇気 (一社)ハッピースマイルホールディングス H21年12月
 副理事長 原中 茂雄 (株)KRC H23年12月	 監事 高橋 義彦 福岡県議会議員 H27年10月	 監事 本河 実平 (株)本河住建 H26年4月	 監事 深田 良介 (有)深田環境衛生 H26年5月
 専務理事 新戸 健一 メットライフ生命保険(株) H25年8月	 常任理事 國本 洋規垂 マルマツ産業(株) H30年8月	 事務局長 中村 崇修 NPO boisoou R1年8月	 事務局次長 鹿瀬 純一 (株)東海エース保険 R3年6月

スポーツのまち特別室



特別室室長

前田 美紀

■(株)ニッソー ■H27年11月

進化した地域ブランド「スポーツのまち」の創出へ

2018年、一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、JCI飯塚)は創立65周年を機に、新しい地域ブランド「スポーツのまち」を掲げ、スポーツを通してこの地域を訪れこの地域を感じ発信することで更なる交流人口の増加へ繋がり、子どもたちの夢へと繋がるスポーツの可能性に想いを馳せたさまざまな事業が展開されました。5年目の節目を迎える本年、今一度当時を思い起こし、進化した地域ブランド「スポーツのまち」の創出へ向け取り組んで参ります。

私たちJCI飯塚は、2018年にスポーツツーリズムの考えを広め、2019年にスポーツツーリズムの考えを具現化した「ツール・ド・KAM A」を実施しました。その後も持続可能な「スポーツのまち」を目指し事業が展開される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い断念せざるを得ませんでした。本年はこれまでの経験と想いを引き継ぐと共にこの地域の秘めたスポーツの可能性を引き出し、「スポーツのまち」の認識を深めていただけるよう取り組みます。まずはこの地域を「スポーツのまち」と誰が見ても一目で認識できるよう、スポーツに関する実績や各施設の活用状況など、この地域がスポーツに特化したまちであることを視覚化します。

スポーツを通して子どもから大人まで老若男女関係なく、そして健康者・障がい者関係なく誰もが楽しめるまちにすることで交流人口の増加に繋がり、地域内外の人々が行ってみたい、住みたいと思う明るく楽しい地域づくりへ繋がるかと確信します。

またメンバー全員が2022年度を振り返り笑顔が溢れ、今後の活気に満ちた活動へ繋がる企画・運営を行ないます。



特別室副室長

福澤 翔

㈱朝日化成
R3年1月

 青柳 宏明 ㈱大丸装飾工業 R1年7月	 大谷 悟史 大谷組 H29年4月	 大谷 翼 NPO法人LIGアカデミー R3年5月	 大塚 正博 ㈱三信ビル管理 H20年8月	 北野 太介 KITANO R1年11月
 木村 芳徳 ㈱福岡中央銀行 R1年8月	 中川 裕貴 なかがわ証券 アドバイザー㈱ H26年4月	 西本 渉 西本工務店 H31年4月	 福澤 慶之 上嘉穂貨物自動車運送㈱ H19年4月	 柘田 晃久 柘田法律事務所 H26年8月
 元野木 正比古 ㈱元野木書店 H29年9月	 山上 諒 ㈱アイックス福岡 R3年5月	 渡辺 紘一郎 社会福祉法人 嘉穂郡社会福祉協会 H30年4月		

まちづくり委員会



委員長

齊藤 嗣人

■ 翔志園 ■ R2年1月

地域の活性化を加速させるまちづくり。

本年、まちづくり委員会では、地域の活性化を加速させるまちづくりと、防災意識の向上を図るまちづくり、これら2つの事業を推進致します。

まず、地域の活性化を加速させるまちづくりについてですが、昨年より続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全国的に不要不急の外出制限、イベントの自粛、活動の制限がなされました。この地域でも、イベントの中止や施設利用の規制が相次ぎ、生活スタイルの変化も求められるようになったのではないのでしょうか。このような状況に置かれた今だからこそ、一般社団法人 飯塚青年会議所として、この地域を先導していくという気概をもち、地域の方々に楽しんでいただき、明るい気持ちになっていただける事業を行う事が必要だと考えます。

時代や状況に応じたイベントのあり方。

まずは、今後の時代や状況に応じたイベントのあり方を考え、進化しているさまざまな技術に注目し、有効活用できるものを取り入れた事業を行います。そして、この地域にある特色を持った場所や環境を活かし、楽しんでいただく事業に取り組むことで、今以上に自分たちの地域に目が向き、この地域でも楽しめることを実感してもらいます。さらに、この事業に参加した他団体等のイベントを行っていた方々が、地域の良さやイベントの楽しさを再認識し、今後さらに多くの方々を楽しませるイベントを開催していくことで、地域が活性化していくと確信し、その事をこの事業の中でしっかりとメッセージとして発信していき、信念を持って推し進めて参ります。

次に防災意識の向上を図るまちづくりについてですが、自然災害に見舞われやすい我が国が、異常気象も相まって近年さらに災害が頻発しています。その環境下において、この地域でもいつ被災してもおかしくないということへの意識向上が今以上に必要だと考えます。また、被災した際に被害を軽減するためには、その意識を行動へと移せることが必要だと考えます。

一人ひとりが備えるべき防災意識。

まずは一人ひとりが備えるべき防災意識を再確認していただきます。そして、その意識や知識を災害時に、より有効に活用できるような事業を行い、日頃の対策まで含め実際に防災行動をとっていただけるよう意識の向上に繋げていきます。さらに、一人ひとりが「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助・共助の考えの大切さを理解していただけるよう取り組んで参ります。この事業により意識だけでなく行動へと移すことのできる人が増えることで、被害の軽減に繋がると確信し、この地域を災害に強いまちづくりへと推し進めて参ります。

そして、もう一つの担いでもあります創立記念につきましては、多くの諸先輩方とお会いできる貴重な場であり、諸先輩方におかれましては当時のメンバーと友情を再確認し育むことのできる貴重な機会であることを尊重し、69年という長きにわたって紡がれてきた歴史を重く、受け止めるとともに、その貴重な場を活かしてより多くの関りが持てるよう厳粛に、そして何より来てよかったと思っていただけるよう運営を行ってまいります。



副委員長

今里 啓二

南サンナイ調剤薬局
R3年4月



大塚 裕二

大和興業街
R2年12月



大庭 みほ子

南コスモスハウス
arukある暮らし
H28年9月



笠置 一星

衛空置建工
R2年4月



岸 和也

衛岸クレーン工業
R3年4月



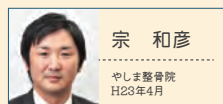
崎村 悟

ふみな工業街
R1年7月



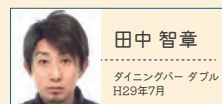
島袋 真

ダイニングパーク
R2年12月



宗 和彦

やしま整骨院
H23年4月



田中 智章

ダイニングパーク
ダブル
H29年7月



鶴原 賢

鶴原液化ガス街
H30年7月



永末 敬典

飯塚俊探街
R2年10月



福丸 奈々美

なつきの司法書士
行政書士事務所
R3年12月



丸嶋 久典

衛親和園
H29年5月



安永 尚平

衛ウエフ
R1年11月



山内 一也

衛ネットワーク
R3年11月

総務例会委員会



委員長

吉浦 俊次

■(株)ヨシウラ ■H28年4月

会員の「メンバーシップ」を高める。

私たち一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、JCI飯塚)は、様々な知識と経験を兼ね備えたメンバー同士が切磋琢磨しながら共に考え、励まし合いながら困難を乗り越え、相互扶助の関係で共に成長していけるような魅力ある機会に恵まれていると考えます。そして、同世代の青年経済人が多く集った私たちは、この魅力ある機会をさらに活かしていかなければならないのではないのでしょうか。

その第一歩として、当たり前のように与えられている恵まれた環境がいかに大切であるかということ意識し、メンバー同士がより緊密に関わりながら「メンバーシップ」を高めていくことが必要であると考えます。

関わりを通じて一人でも多くのメンバーと理解し合える関係を築くために。

そこで、私たち総務例会委員会では、例会という全メンバーが一堂に会す絶好の機会を最大限活かし、厳正かつ厳粛な式典運営に務めるとともに、関わりを通じて一人でも多くのメンバーと理解し合える関係を築いてもらえるよう企画・運営してまいります。

そのために、相手の考えを聞き、自己の考えを伝えられるような議論や共同作業の場を作っていく、より親密なコミュニケーションが取れる環境を提供していきます。さらに、一人でも多くのメンバーと価値観を共有して相互理解を浸透させるために、今まで深く関わったことのないメンバーや新入会員との関わりを増やし、新たな一面性や共通点の発見をきっかけとして、仲間意識を高めながらJCI飯塚にさらなる一体感を醸成していきます。

メッセージを地域に波及し多くの方々に共感してもらえるように。

そうすることで、普段のJC活動におけるメンバー間のコミュニケーションがより綿密になっていき、議論を重ねながら互いを理解し合い、磨き合っているような魅力ある機会が最大限活かされ、さらなる自己成長を促進させていくことができると考えます。その結果として、「メンバーシップ」が高まりJCI飯塚の各事業に向けて大きな力が生み出され、それぞれの確かなメッセージとして地域に波及し多くの方々に共感して頂けると確信致します。さらに、ニューノーマルな開催方式により確立されてきたオンラインコミュニケーションツールに新たな付加価値を見出し、新時代だからこそできる技術を取り入れた例会運営に向けて挑戦してまいります。

また、総務の担いについては定款並びに運営規定に基づいて総務諸業務に取り組み、総会運営についても厳正かつ厳粛に執り行い、円滑な運営を行ってまいります。

そして、もう一つの担いでもあります創立記念につきましては、多くの諸先輩方とお会いできる場であり、諸先輩方におかれましては当時のメンバーと友情を再確認し育むことのできる貴重な機会であることを尊重し、69年という長きにわたって紡がれてきた歴史を重く受け止めるとともに、その貴重な場を活かしてより多くの関りが持てるよう厳粛に、そして何より来てよかったと思っただけのよう運営を行ってまいります。



副委員長

鈴木 真悟

(株)鈴木建設
R3年11月



今吉 義之

㈱パーソナルネット
H21年7月



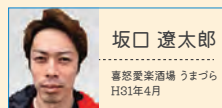
大村 洋祐

南日本パポルナ
H26年4月



尾方 佑輔

Life Time Supporter
R1年7月



坂口 遼太郎

喜怒哀楽酒場 うまつら
H31年4月



下田 聡

西日本シティ銀行
飯塚支店
H28年4月



鈴木 健午

麻生商事株式会社
H29年11月



芹野 智之

たこ八
R1年7月



曾根 諒太

福岡県議会議員
江藤秀之事務所
R3年8月



田中 亮平

掛川島屋
R1年8月



能登 洋晃

南かいと環境開発工業
H28年11月



野村 昇平

飯塚信用金庫福岡支店
H30年4月



前山 剛哉

㈱前山産業
H29年8月



矢野 英介

中華そば麺すけ
R3年11月



吉原 正和

福岡県議会議員
高橋義彦事務所
H27年10月

会員拡大アカデミー委員会



委員長

村上 貴俊

■村上ホーム(株) ■R2年10月

一人でも多くの会員を増やすためには。

一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、JCI飯塚)は、現在多くのメンバーが「明るい豊かな社会」の実現のため、一丸となって日々活動を行っています。このようにJCI活動やJCI運動ができているのもこれまでJCI飯塚で活動されてきた諸先輩方が築き上げてきたものを次の世代へとバトンを渡し、現メンバーがその想いをしっかり引き継いでいるからだと考えております。

JCI飯塚を含め青年会議所は40歳までの青年の団体であり、40歳を迎えると卒業します。これまで引き継がれてきたJCI飯塚を維持していくためには新陳代謝が必要であり、そのためには継続して新たなメンバーを迎え入れ、JCIの本質や魅力あるリーダーを知ってもらい、先輩方の想いを理解してもらうことが必要だと考えます。

積極的に交流を持ち、お互いの心の距離を縮めていく。

まず、委員会メンバーで今一度会員拡大活動の必要性を共有することで、委員会メンバーのベクトルを合わせていきます。そして、委員会カラーを全面に押しだし、これまで同様、JCI活動や運動で他のメンバーと積極的に交流を持ち、小さな情報でも可能性があるものは新たにリスト化し、メンバー内で共有して入会候補者にアプローチしていきます。また、アカデミーメンバーや入会候補者などからも積極的に情報を入手して入会候補者の数を増やしていきます。さらに、今年卒業されるメンバーから自身の想いを紡いでもらえるような候補者を紹介していただけるよう努めて参ります。このように活動することでメンバー全員を巻き込み、会員拡大に対する意識を高めてメンバー全員のベクトルを合わせ、一人でも多くの会員を迎え入れていきます。

自己成長のための「新たな価値観や考え」。

メンバー全員で拡大してきたアカデミーメンバーの育成に関しまして、まずは委員会メンバーがアカデミーメンバーと積極的に交流を持ち、お互いの心の距離を縮めていくことが、JCI活動やJCI運動に参加したいと思えるきっかけになると考えます。そして、様々なJCI活動やJCI運動に積極的に参加してもらうことでJCI飯塚のみならずこの地域で活動する様々な魅力を持つリーダーと触れ合う機会が得られます。そこで得た経験を活かし、アカデミーメンバーを主体とした事業をおこないます。アカデミーメンバーが主体となって自発的・積極的に取り組むことで、新たな価値観や考えをさらに経験値として獲得し、自己の成長に繋がっていくと考えます。

私が考えるJCIの魅力は、JCI活動やJCI運動のみならず様々なコミュニケーションの場を通じて生涯の仲間ができる場所であるということです。委員会メンバーとアカデミーメンバーが一丸となって楽しみながら1年間走り続け、走り終えた時にみんなで喜びを分かち合い、共に成長を実感でき、たくさん仲間ができるような、笑顔の絶えない委員会活動をおこなってまいります。

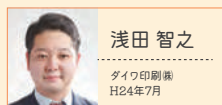
新春祝賀会では、2022年度のJCI飯塚がスタートします。2022年度のスローガンであります、「MESSAGE」今地域に伝えたい想いを、地域の方々、来訪していただくJCIのメンバーの方々、JCI飯塚の先輩方に最大限に発信できる企画、運営を致します。



副委員長

今村 優太

(株)やまし不動産
R2年10月



浅田 智之

ダイワ印刷業
H24年7月



有吉 正臣

徳筑豊調味
R2年4月



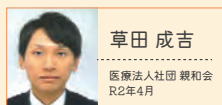
小倉 征典

小倉商店
H30年4月



小山内 弘治

小山内工業
H29年8月



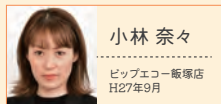
草田 成吉

医療法人社団 親和会
R2年4月



古賀 浩一

街セントコーポレーション
H22年7月



小林 奈々

ピップエコー飯塚店
H27年9月



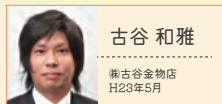
佐藤 涼介

南佐藤商店
R4年1月



伏屋 和将

明治安田生命保険相互会社
R4年1月



古谷 和雅

南古谷金物店
H23年5月

ひとづくり委員会



委員長

敷田 時丸

■福岡観光バス(株) ■R1年8月

「明るい豊かな社会」の実現。

一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、JCI飯塚)は、「明るい豊かな社会」の実現のため、この地域で歩み続けています。今年度当委員会の担いでもある青少年の育成のため、我々は全力で次の時代を担う子どもたちが健やかに成長できる機会を作っていく必要があると考えます。

この青少年の育成のため、当委員会ではスポーツに着目し、子どもたちと関わっていきます。なぜならばスポーツには、挑戦して成功した時の喜びや達成感、失敗した時の悔しさや、練習する時の辛さという気持ちを仲間と共有することができるからです。そしてこの地域には「スポーツのまち」として、豊かなスポーツ施設が数多く存在し、地域内外の様々な子どもたちが訪れてきています。この2つの利点を活用し、子どもたちの成長に繋げていきます。

地域内外問わず様々な子どもたちが交流できる活動。

まずは地域内外問わず様々な子どもたちが交流できる活動を増やしていきたいと考えます。今まで子どもたちは単純にスポーツを楽しむにスポーツ施設に来ていたと思います。子どもたち同士が今まで以上に、より深い交流ができるきっかけを我々が提供することで、子どもたちにとっては多種多様な考え方にふれることとなります。そして今まで関わりのない子どもたちと関わることは、どうしたら自分の意見を相手に伝えられるのかを考える機会となり、今後子どもたちに訪れるであろう様々な困難を仲間と共に乗り越えていける一つの強みになると考えます。この交流の輪を広げていくためにも、当委員会は地域内外問わず、様々な団体に我々の子どもたちに対する成長の想いを丁寧に発信する活動を続けて参ります。

活動を地域の方々に広く伝える。

また、今年度実施するこの活動が一過性のものにならないためにも、ただ子どもたちに交流の機会を設けるだけでなく、これまでの活動で交流してきた子どもたちの成長を感じていただける場をもうけ、この地域の方々に広く伝えて参ります。そしてこの活動がこの地域に周知され認められれば、継続的に行われるようになると信じ1年間邁進して参ります。

新春祝賀会では、2022年度のJCI飯塚がスタートします。2022年度のスローガンであります、「MESSAGE」今地域に伝えたい想いを、地域の方々、来訪していただくJCのメンバーの方々、JCI飯塚の先輩方に最大限に発信できる企画、運営を致します。



副委員長

大村 絵美

■東京海上あんしんエージェンシー福岡支店
R1年9月



伊藤 哲

■WORKERS CARE
H30年10月



因間 雄二

CleeeeN
R2年11月



遠藤 訓之

■親和電設工業㈱
H26年8月



小田 裕亮

■南明豊舗道
H29年12月



神崎 琢也

■藤麻生
R3年4月



久保 勝志

■飯塚信用金庫庄内支店
H30年4月



高田 健太郎

■たかた呉服店
R1年11月



田中 大輔

■南BONDS
R8年10月



塚本 恭平

■株ホーホー堂
ひかり調剤薬局
R1年12月



春田 祐太郎

■南春田建設
H31年4月



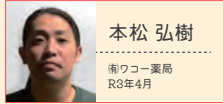
藤川 聡

■藤川自動車㈱
H29年7月



前田 義之

■南前田商事
R3年11月



本松 弘樹

■南ワコー薬局
R3年4月



2022年度 会員紹介

組織図

(会員数:86名)



2021年度 卒業生の声

2021年度は13名のメンバーが卒業しました。



伊香賀 亮 ikouga ryo

私は9年間、飯塚青年会議所に在籍しました。入会当初は先輩方に色々とお教えいただきながら、分からないなりに活動していましたが、途中何年かJC活動を休んでしまいました。が、またJC活動に復帰した時にメンバーの皆さんが温かく迎えてくれた事に今も感謝しています。今後も現役メンバーの活躍を楽しみにしています。



稲岡 良平 inaoka ryohei

飯塚青年会議所に入会し、たくさんの人と価値観に出会えたことが何よりの財産です。コロナ禍でなければ、もっとたくさんの事業をしたり、懇親会でお酒を飲みながらおしゃべりしたり、気兼ねなく皆でワイワイしたかったというのが正直な気持ちです。あっという間に感じる卒業ですが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



前 佳津雄 mae katsuo

私は3年という短い在籍期間でしたが心より信頼できる多くの仲間に出会い、どんな環境でも心豊かに生きていく精神を学ぶことができました。一生懸命仕事をして日々生活をする中で学べる内容、出会う人には限界があります。私に足りないものをたくさん与えてくれた飯塚青年会議所には感謝の気持ちしかありません。



三村 晋作 mimura shinsaku

4年間という短い在籍期間でしたが、LOMの副委員長と副理事長、福岡ブロックの委員長、山笠振興会の書記長と書記長補佐といった色々な役職を経験しました。須らく役職を受けるべきだとは思いませんが、困っている友人がいたら助けになろうと思う心を忘れないでください。そして、それぞれの仕事を最大限頑張ってください。



室井 隆太 muroi ryuta

私の意思ではなくJCに入会し、最初は意味を理解せず懐疑的に過ごしてました。メンバーと顔を合わせ、活動を通すにつれ、少しずつJCの理解が深まってきました。役職からは、縁遠いJC生活を送って来ましたが、掛替えのない出会い、視野の広さ、考える柔軟性、発想力等仕事でも活きる部分があります。今までありがとうございました。



(一社)飯塚青年会議所は、
あなたの力を求めています！

会員募集中

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

青年会議所(JC)は“明るい豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内691余りの都市に約26,000人の会員を擁し、全世界130カ国の国及び地域に活動拠点があります。青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

対象者：飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務地を有する20歳から37歳までの健全な方で
あれば男女は問いません。詳しくは下記(一社)飯塚青年会議所事務局までお問い合わせください。

飯塚青年会議所
ホームページは
こちら！



飯塚青年会議所
Facebookは
こちら！



飯塚青年会議所
Instagramは
こちら！

